

植松奎二 みえないものへ、触れる方法 - 直観

Ways of Touching the Invisible - Intuition



会 期 2021年3月13日(土) — 5月9日(日)
 開館時間 午前10時—午後5時(入館は午後4時30分まで)
 会 場 芦屋市立美術博物館 第1、2展示室、エントランスホール
 休 館 日 月曜日(ただし、5月3日は開館、5月6日は休館)
 観 覧 料 一般700(560)円、大高生500(400)円、中学生以下無料

※同時開催「芦屋の歴史と文化財」展の観覧料も含む

※()内は20名以上の団体料金

※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護の方は各当日料金の半額になります。

○観覧料無料の日:3月21日(日)

主 催 芦屋市立美術博物館
 後 援 兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、Kiss FM KOBE
 協 力 Gallery Nomart, Yumiko Chiba Associates

PRESS RELEASE

開催趣旨

植松奎二(1947-)は、作品を発表しはじめた 1969 年より現在にいたるまで、彫刻、インスタレーション、写真、映像、パフォーマンスなど、多岐にわたる活動により、一貫して重力、引力といった見えない力の法則から世界の構造・存在・関係をよりあらわにしてきました。自身の身体を用いた空間の存在把握や、人と物体との関係性など、世界を知覚させる作品を数多く発表しています。

いつの時代も知覚を超えてある、みえないもの、隠れている事象へと思考を巡らすことは、自らの力によって道を切り開く方法を見つけることになると思います。

本展では、植松の作品と直観で対話し思考を深め、この世界を新たに認識する方法を探っていきます。

以前から、人間と美術と科学との出会い、対話が気になっています。
僕は美術を通じて、世界を知り、世界を表現し、世界を創っています。
科学、数学に美学的考察のひとつのかたちをみれると思うのです。
そこには美術と同じように直観と想像力がある。
それらは「すべては仮説ではじまった」と思うのです。

植松奎二「見えない言葉に触れる」2020年5月18日

みどころ**▼本展では、エントランスホール、各展示室で新作・インスタレーション作品を展示**

植松は 1 年をかけて当館の空間と構造を読み解き、ここでしか生み出せない作品を発表します。あわせて 70 年代の写真作品を展示し、植松が一貫して行ってきた重力、張力、引力といった見えない力の法則からあらわにしてきた世界の構造・存在・関係について、時空を超えた思考を巡らせる場をつくり出します。来訪者は唯一無二の鑑賞を体験し、新しい世界と出会うことになるでしょう。

* 展示は4つのパートにわかれます。「宇宙に触れる」「思考に触れる」「未知なるみえない重力の庭に触れる」「エネルギーに触れる」 インスタレーション、立体、平面、写真、ドローイング等、約 70 点

▼植松が興味をもつ事柄とはどんなものなのか。

過去に訪れたヨーロッパ各地の街角で植松が触発された写真や、日常的に書き留めてきたキーワードを展示し、植松の思考の世界に触れていただきます。

▼会期中、さまざまなイベントを予定

関連イベントでは、植松が講師となる大人のためのワークショップや、神戸市・西宮市のパブリックスペースに設置された植松の彫刻作品巡りのほか、美術評論家の光田由里氏との対談を予定しています。

また、70 年代から 2010 年代の映像作品 14 点を一挙公開・上映します。

* 上映日は限定となります。詳細は関連イベント情報をご覧ください。

PRESS RELEASE

関連事業

3月20日(土・祝)
14:00-16:00(予定)

(1) アーティストーク「みえないものへ、触れる旅」

講師:植松奎二
会場:当館 展示室ほか
参加費:無料(ただし要観覧券)
定員:50名(予定) 申込不要 直接会場へお越しください

3月28日(日)
14:00-16:00(予定)
※事前申込制

(2) おとなのためのワークショップ「言葉とものとなりに触れる楽しいワークショップ」

講師:植松奎二
会場:当館 体験学習室ほか
参加費:無料(ただし要観覧券)
対象:高校生以上のどなたでも
定員:20名 *3月14日(日)締切 *応募者多数の場合は抽選

4月11日(日)
14:00-16:00(予定)

(3) 対談「かつて現代美術があった-みえない言葉ともの」

講師:植松奎二 × 光田由里(美術評論家)
会場:当館 講義室
参加費:無料(ただし要観覧券)
定員:50名(予定) 申込不要 直接会場へお越しください

4月25日(日)
13:00-17:00(予定)
※事前申込制

(4) 植松さんと一緒に 野外彫刻ピクニック + 展覧会鑑賞

案内:植松奎二
会場:神戸市中央区、西宮市の野外彫刻ほか、芦屋市立美術博物館
参加費:100円(保険代等) *観覧券ならびに移動に係る交通費は別途ご用意ください
対象:どなたでも
定員:30名 *4月11日(日)締切 *応募者多数の場合は抽選

- ① 3月13日(土)
- ② 3月27日(土)
- ③ 4月10日(土)
- ④ 4月24日(土)
- ⑤ 5月8日(土)

(5) 上映会

会場:当館 講義室
定員:50名(予定) 申込不要 直接会場へお越しください
参加費:無料(ただし要観覧券)

10:00-17:00

*映像作品 14点を
ループ上映

関連事業は、2021年1月15日現在

【(2)(4)のお申し込み】

芦屋市立美術博物館へお電話(0797-38-5432)かEメール(ashiya-bihaku@shopro.co.jp)にて、イベント名、氏名、住所、連絡先をお伝えください。

【お問い合わせ】芦屋市立美術博物館 〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25

TEL:0797-23-2666(学芸直通)、38-5432(代表) FAX:0797-38-5434

【企画内容に関して】担当学芸員:大槻 晃実 TEL:0797-23-2666(学芸直通)

【画像貸出など広報について】総務課 TEL:0797-38-5432(代表)

◇ホームページ:<http://ashiya-museum.jp/>

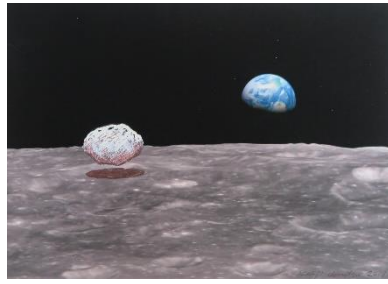
◇ツイッター:@ashiyabihaku

PRESS RELEASE

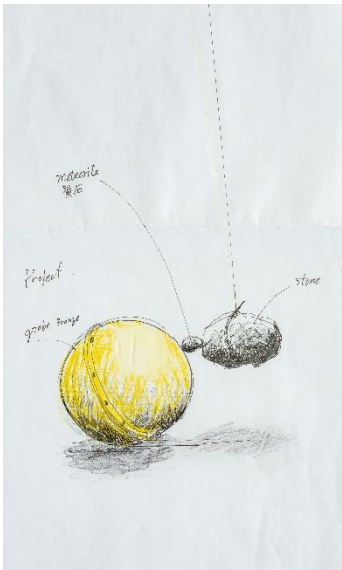
作 品



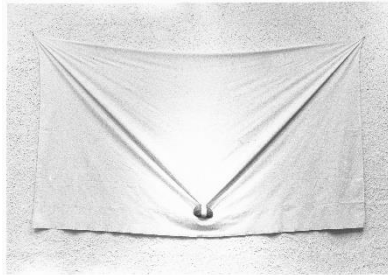
1 |



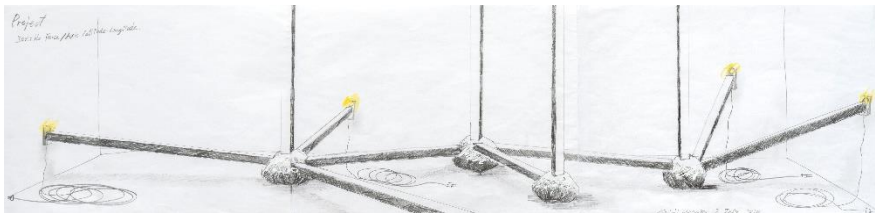
2 |



3 |



4 |



5 |



6 |



7 |



8 |

「植松奎二 みえないものへ、触れる方法 - 直観 Ways of Touching the Invisible - Intuition」展の画像データをプレス掲載用にご用意しております。使用を希望される際は別紙(申込用紙)にご記入のうえ、当館までご連絡ください。
※画像掲載の際には下記作品クレジットをご明記ください。

1 |

《オマージュ フーコーの振り子》

2019

* 芦屋市立美術館での展示風景

2 |

《浮く石 - 地球の出》

2019

Courtesy of Gallery Nomart

3 |

《摩擦のあいだ - 宇宙からの贈りもの》

2021

4 |

《Triangle - Stone / Cloth》

1979

Courtesy of Simon Lee Gallery & Yumiko Chiba Associates

参考作品

5 |

《見えない力 - 軸・経度・緯度》

2021

6 |

《間 - 5つの石II》

1975

Courtesy of Gallery Nomart

7 |

《Measuring - Corner》

1976

* 映像作品

8 |

《Degree - Light Performance for Heidelberg》

1981

* 映像作品

作家プロフィール



植松 奎二

1947年、神戸市生まれ。1969年神戸大学教育学部美術科卒業。同年、ギャラリー16(京都)で初個展。1974年神戸市文化奨励賞受賞。翌年、当時の西ドイツに渡る。1976年ストックホルム近代美術館(スウェーデン)にて海外で初めての個展が開催された。1988年第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表に選出。1990年第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻展大賞受賞。2013年第38回中原悌二郎賞受賞。

石、木、布、鉄、ガラスなどを用いたインスタレーション作品のほか、彫刻、写真、映像、パフォーマンスなど、多岐にわたる活動により、一貫して重力、張力、引力といった見えない力の法則から、世界の構造・存在・関係をよりあらわにしてきました。それらは人間と地球と宇宙への素朴への関心から生じています。自身の身体を用いた空間の存在把握や、人と物体との関係性など、世界を知覚させる作品を数多く発表しています。現在、デュッセルドルフ(ドイツ)と大阪を拠点に、国内外の美術館やギャラリー、パブリック・スペースなどで発表、国際的に活躍を続けています。

主なパブリックコレクションに、神奈川県立近代美術館、国立国際美術館、兵庫県立美術館、西宮市大谷記念美術館、大阪中之島美術館、京都市美術館、ストックホルム近代美術館、ニューヨーク近代美術館、カルティエ現代美術館、ミュンヘン市立レンバツハ美術館、ピノーコレクション、ほか多数

主な個展・グループ展

- 1969年 個展 「透視 Transparence - H₂O」 ギャラリー16、京都
「第1回現代国際彫刻展」 箱根 彫刻の美術館、神奈川
- 1971年 「第10回現代日本美術展 人間と自然」 東京都美術館、京都市美術館
- 1972年 「第5回現代の造形(映像表現 '72)-もの・場・時間・空間- Equivalent Cinema」 京都市美術館
- 1974年 「日本の伝統と現代」 デュッセルドルフ市立近代美術館、ドイツ
- 1975年 「2人の現代作家と南蛮美術館」 河口龍夫・植松奎二」 神戸市立南蛮美術館、兵庫
- 1976年 個展 「彫刻・写真・ビデオ・フィルム」 スtockホルム近代美術館、スウェーデン

PRESS RELEASE

- 1977年 「アウスシュニッテ 1」 デュッセルドルフ市立近代美術館、ドイツ
- 1980年 個展 「軸-緯度-経度」 P.S.1、ニューヨーク、アメリカ (-81年)
- 1981年 個展 「今日の作家シリーズ 植松奎二展 立体と写真」 大阪府立現代美術センター
- 1985年 「彫刻」 カルティエ現代美術財団、ジュワ・アン・ジョザス、フランス (-86年)
- 1988年 「第43回ヴェネチア・ビエンナーレ」 ジャルディーニ・ディ・カステッロ、ヴェネチア、イタリア
- 1990年 「芸術における自然」 メッセパラストホール、ウィーン、オーストリア
「第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻展」 神戸市立須磨離宮公園、兵庫
- 1997年 個展 「知覚を超えてあるもの」 西宮市大谷記念美術館、兵庫
「重カ-戦後美術の座標軸」 国立国際美術館、大阪
- 2003年 個展 「身体と眼差しへの思考、'70sの写真・映像から新作まで」 北九州市立美術館、福岡
- 2006年 個展 「時間の庭へ・植松奎二展」 西宮市大谷記念美術館、兵庫
- 2009年 「ビデオを待ちながら-映像、60年代から今日へ」 東京国立近代美術館、東京
- 2015年 「来るべき世界の為に:1968-1979年における日本美術 写真における実験」
ヒューストン美術館、テキサス / Gray Gallery and Japan Society、ニューヨーク、アメリカ
- 2016年 個展 「Invisible Force and Seeing」 マールカステン美術家協会、デュッセルドルフ、ドイツ
「Performing For The Camera」 テート・モダン、ロンドン、イギリス
- 2018年 開館40周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」 国立国際美術館、大阪
「アジアにめざめたら:アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代」 東京国立近代美術館、
国立現代美術館果川館、韓国、ナショナル ギャラリー、シンガポール (-19年)
- 2019年 個展 「見えない力」 サイモン・リーギャラリー、ニューヨーク、アメリカ
「Inside Out:高松次郎と植松奎二による会話」 英国王立彫刻家協会、ロンドン
- 2020年 「京都の美術 250年の夢 -江戸から現代へ-」 京都市京セラ美術館
開園30周年記念「ドイツ 20世紀 アート - 人・対話・みらい -」 徳島県立近代美術館

ほか多数

受賞

- 1973年 第8回ジャパンアートフェスティバル 優秀賞
- 1974年 神戸市文化奨励賞
- 1990年 第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻展、大賞
- 1993年 第15回現代日本彫刻展、宇部興産株式会社賞 / 神奈川県立近代美術館賞
- 1995年 第16回現代日本彫刻展、宇部興産株式会社賞
- 1997年 第28回中原悌二郎賞、優秀賞
第17回現代日本彫刻展、宇部興産創業100周年記念賞 / 兵庫県立近代美術館賞
- 2010年 神戸市文化賞
- 2013年 第38回中原悌二郎賞

芦屋市立美術博物館 画像借用申込用紙

2021年3月13日(土)―5月9日(日)



植松奎二 見えぬもの、触れず皆遠へ直観
Keiji Uematsu Ways of Touching the Invisible - Intuition

FAX 連絡先
(0797)38-5434

ご希望の写真番号に○をつけてご返送をお願いいたします。本展をご掲載いただける場合、読者・視聴者プレゼント用招待券(10組20名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・所蔵元など
1	《オマージュ フーコーの振り子》2019 * 芦屋市立美術博物館での展示風景
2	《浮く石 - 地球の出》2019 Courtesy of Gallery Nomart
3	《摩擦のあいだ - 宇宙からの贈りもの》2021
4	《Triangle - Stone / Cloth》1979 Courtesy of Simon Lee Gallery & Yumiko Chiba Associates 参考作品
5	《見えない力 - 軸・経度・緯度》2021
6	《間 - 5つの石II》1975 Courtesy of Gallery Nomart
7	《Measuring - Corner》1976 * 映像作品
8	《Degree - Light Performance for Heidelberg》1981 * 映像作品

貴社名	
媒体名	(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・その他)
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着希望日	
招待券希望枚数	組 名分希望

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。